

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

小学校英語活動支援：地域の人的資源として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 神戸市外国語大学研究会 公開日: 2007-09-30 キーワード: 作成者: 横田, 玲子, Yokota, Rayko メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/588

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



小学校英語活動支援

——地域の人的資源として——

横 田 玲 子

1. はじめに

小学校における英語教育に関して賛否両論の議論がなされる昨今であるが、本稿ではあくまでも一つの実践記録として神戸市立東町小学校の英語活動に筆者の所属する神戸市外国語大学（以下、外大と略す）が地域貢献としてどのように関わってきたかを述べる。その目的は2つある。まず、地域の人的資源として大学がどのように小学校英語活動に関わっているか、実践報告により成し得たことを明らかにすることである。つまり、それに関わった多くの児童、学生、教員らが歩んだ3年間を総括し、そこで起こった学習をまとめることによって、当大学が東町小学校英語活動に対しどのような貢献をしたかを明確にしたい。第2に、東町小学校と外大はきわめてユニークな歩みが続けているともいえ、その内容をできるだけ詳細に記録し、記述することは今後の活動を考える上での不可欠な振り返りを行うことであり、それに関わる我々の今後の展望を見出すため必要な作業でもある。

地方自治体によって小学校英語活動の実施は担任主導、ALTとのチームティーチング、また地域の人材による支援を得ての授業等さまざまな形態を持ちながら教育活動を展開している。何年かのちには全国的なガイドラインに従った小学校英語活動が開始されると思われる。どのようなガイドラインであろうとも、学習者としての子供たちが英語を使ってコミュニケーションをする意義を見いだせる活動は、それを教える者にとって将来の教育活動

の実施においてどのような工夫によってどんな可能性があるのかを考えながら主体的にガイドラインに関わっていくことを教えてくれるのではないだろうか。その意味で、外大が東町小学校とともに歩んだ3年間の中にきっと多くのアイデアや活動のヒントになるものが点在していると思う。

2. 「総合的な学習」の中の「英語活動」という位置づけ

公立小学校における英語活動は現在「総合的な学習」の中の留意すべき4項目（国際理解、環境、情報、福祉・健康）のうち以下の1項目にそって各自治体、或いは学校単位で計画され実践されている。

国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等を行うときは、学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること。（小学校指導要領 総則）

総合的な学習とは現在賛否両論の議論になっている「ゆとりある教育」の一環として実践されているもので小学校では3年生以上の時間割の中に週3時間入っている。つまり英語活動は「英語」という教科として小学校に入っているのではなく、学校裁量として「総合的な学習」の一部で行ってもよい学習活動として実施されている。

2006年度の文科省小学校英語活動実施調査では全国の公立小学校22,031校のうち、95.8%の学校が「英語活動を実施している」と回答している。しかし、実施時間数に関しては全国で大きなばらつきがあると思われる。現状においては各地方自治体の財源、また実施方法の工夫によって、英語を指導できる人材を確保している学校は、週3時間ある「総合的な学習の時間」の1時間を「英語活動」にあてて、年間35時間実施しているところもあれば、東町小学校のように年間10時間のところもある。松川（2006）によれば、年間平均実施時間数で一番多かったのは「4時間から11時間」という枠である。

神戸市においては教育委員会が派遣英会話教室を運営する企業に派遣を依

頼し、全市169校で各学級年間7回の英語活動を実施している。この実施時間数からすると4時間から11時間という枠に入るわけで全国的にみても英語活動に関して平均的な時間数を実施しているといえる。

東町小学校ではその年間7回の派遣を低学年に多く回すなどの工夫をしつつ、中高学年では外大との連携による英語活動を各学級年間10回を目標にして実践してきた。また上記の指導要領を踏まえた上で、学校教育目標「たくましく生きぬく子供の育成」に役立つ英語活動の計画がなされた。

3. 小学校英語活動を誰が教えるのか

小学校教育では、ほとんどの教科を一人の担任が教え、1日の多くの時間を同じ子供たちとともに過ごす。教科専任としての高学年音楽担当、図工担当の教諭が配置されているが、英語に関してはまだ教科化されておらず、小学校で英語を教えられる人材が十分でないため、英語専科を置いている学校はまだ少ない。この先英語が必修化されたとしても小学校教育と英語指導をリンクさせて研修を受けている教員の育成が追いつかない限り、中高の英語免許を持ちながら小学校免許を取得した上で英語専科教員として小学校に配置されることが予想される。しかし単純に考えても、少子化で児童数は減っているとはいえ、全国に22,000以上の小学校が存在することを考えると、英語専科の育成と言っても短期間で十分な人材が育成されるのは困難であろう。

現在主流になりつつあると思われるのは、担任が主体となり、英語専科、ALT、または英会話企業派遣の講師とチームティーチングを行うことである。児童の発達年齢において、日々一緒に過ごしている担任が彼らを最もよく知っていることは事実であり、今までカリキュラムに存在しなかった「英語」を導入するに際して、専科教員や企業派遣の講師だけで子供たちを指導するよりも担任と一緒に子供たちの前に立って指導することがスムーズな授業を展開できると予想されるからである。

東町小学校においても、神戸市教育委員会から派遣される英会話企業の講

師だけに指導をまかせるのではなく、担任が教室で一緒に指導にあたっている。授業の内容は、派遣先の会社がメニューのように並べた「食べ物」「色」などのテーマの中から事前に小学校教師が子供たちに指導してもらいたい内容を選択して連絡する。当日はそのテーマの授業を派遣された講師が行い、担任は子供たちが内容についていけるように子供たちと講師の両方をサポートするような形である。

4. 外大支援による神戸市立東町小学校の英語活動

外大を校区に持つ在籍児童約500名の小学校である神戸市立東町小学校は外大大学院英語教育学専攻の設立の前年より、設立に関わる教員との話し合いを持ち、英語活動への支援を要望していた。初年度の英語教育学専攻は児童英語コースに院生として現職教員4名を迎えた。そのうちの1名が自宅で英語教室を長年開いていて、学校教育現場での英語教育の実践に関わることを希望していた。そこでその院生と筆者の2人で東町小学校の英語活動に関わることになった。これは大学院の授業外での実践活動として実施し、院生にとっては新たな「学びの現場」となり、筆者にとってはその院生指導とともに、人的資源として地域貢献をするという2つの意味を持つ教育活動となった。院生と筆者は校内に常駐しないものの、英語専科に近い立場として、活動に関しては常に担任との連携を図りながら計画をたて担任とのチームティーチングを行うこととした。

4.1 活動報告

本稿では2004、2005、2006年度の外大が参加する英語活動について報告する。2004年度においては3年生と5年生の実践にとどまったが、2005年度は3年生から6年生までのすべてのクラスで、英語活動が実施された。2006年度は5年生と6年生の英語活動に参加した。この年の低学年と中学年では英語のできる教員たちが中心になって英語活動を実施しており、5年生は6年生の外大訪問へ向けてのプロジェクトとしての英語活動を実施し、6年生は

実際に外大訪問を行った。以下に年度ごとの活動を詳しく述べる。

4.2 2004年度

6月に筆者を含めた大学院英語教育学専攻の教員5人と大学院生2名、学部で児童英語を履修している学生15名が3年生のクラスを訪れ、東町小学校の教員のほとんどが見学に来る中、筆者が中心になって児童と外大からの訪問者の全員が参加する授業を行った。外大の顔見せ興行といった打ち上げ花火的な単発授業であったが、35名の3年生児童に対して、外大からの訪問者が20名以上で、大人1人に児童が1人か2人という少人数グループになり、英語でのごく簡単な自己紹介や名前のアルファベットなどを学習する活動を行った。顔見せ授業ではあったが、今後の英語活動につながる第一歩となった。

それ以降、東町小学校からは3年生と5年生の英語活動を支援してほしいとの要請があり、大学院生が3年生で5回、5年生で8回の授業を計画、実施した。以下がその計画の概要である。

4.2.1 3年生の英語活動

	トピック	表現の例	目的
1	数	Hello, my name is～. 8 plus 2 equals 10. Pick out one card, and turn it over.	挨拶をする。 数字を英語で言う。 指示を理解する。
2	スポーツ	Do you like soccer? Yes, I do. No, I don't.	体育で行ったスポーツを英語で言う。 好きか嫌いかを言う。
3	顔や体の部分	What's this? This is ～. Who is he?	顔や体の部位の名称を英語で言う。 出来上がった絵がだれなのかを尋ねる。
4	身近な学用品	This is my glue.	自分の持ち物を英語で言う。
5	パーティ (2時間扱い)	Bread, please. Thank you very much.	英語活動で学んだことを発表するとともに英語表現の実践。

英語への導入、また中学年ということもあり、身近なものごとの英語の名称や簡単な表現を適切なゲームを用いて指導するとともに、担任が普段の教



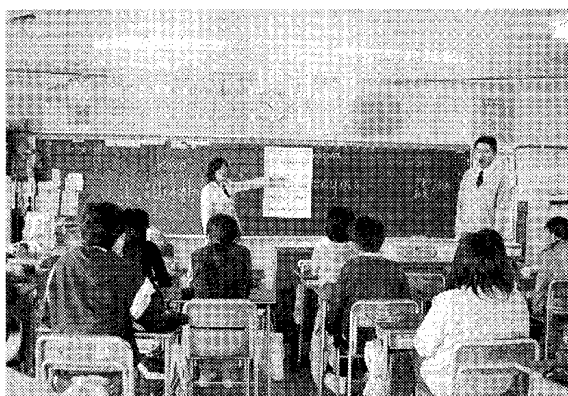
科指導の中でも用いることのできる指示 (Go and get your bag. Let's go outside など) の英語での表現を担当が学べるような授業を展開した。「適切なゲーム」とあえて表現したのは、英語活動というと、

「ゲームで英語に親しむ」といった表現が多く使われるが、実際にゲームをすると、英語の内容より子供たちはゲームの勝ち負けに興味が行くことが多く見られ、有益な学習がなかなかできない場合がある。そこでゲームを取り入れるとしても、算数的な要素によって数を考えるものや、実際の自分の持ち物を隠して、「これは何でしょう?」、といったゲームを行った。

最後のまとめとして、学年全員でランチルームに集まって、グループ別に英語活動で学んだことを簡単な英語で発表し、給食のパンでサンドイッチづくりのパーティーをした。筆者を含めた外大教員2人、学部生1人も参加して、子どもたちが英語で “Bread, please. Strawberry jam, please.” と、必要なものを取りに来る子供たちの相手をしてパーティーに参加した。写真はパーティーの様子である。



4.2.2 5年生の英語活動



5年生は校内の担任以外の先生へインタビューに行き、その先生について知り得た情報を発表する活動を行った。初年度のこの活動が翌年の6年生の外大訪問につながることとなった。指導にあたった院生は、担

任教師らとの打ち合わせや、ティームティーチングによって、大学院で学ぶ理論やさまざまな教育方法を実践すると共に、教員としての内省を深めるべく様々な経験を積んだ。

	トピック	表現の例	目的
1	Why English?		国連のデータから英語がどの国で使用されているかを知り、学習の動機付けをする。
2	Myself Countries Friends	Hi, I am ~. Who is she/he? She/he is ~. Where is she/he from? He/She is from ~.	自分やクラスメートについて簡単な英語で表現する。いろいろな国の国旗をみて国の名前を知る。
3	Birthday	When is your birthday? It's in ~.	12か月の名称を知り、誕生日を聞いたり話したりする。
4	School Facilities	What's this room?	学校の中の施設を英語で言う。
5	Food	What's your favorite food? My favorite food is ~.	食べ物の名称を英語で言える。好きな食べ物を尋ねたり答えたりする。
6	Preparing for the interview	Hello, my name is ~. May I ask some questions? What's your name? Where are you from? When is your birthday? What is your favorite food? Thank you very much.	英語での簡単な質問でインタビューをする。
7	Interview	同上	学校内の先生にインタビューに行く。
9	Presentation	His/Her name is ~. She/He is from ~. His/Her birthday is in ~. His/Her favorite food is ~.	インタビューしてきた内容を英語でグループごとに発表する。

4.2.3 2004年度の総括

2004年度は外大が関わったのはこの2学年だけだった。それまで担任が児童の前で英語を話したり、英語での指示をすることがなかった2学年計5人の担任の教師たちにとっては自分でも使える英語の表現を学び、子どもたち

とともに英語活動を進めていく大きな経験の1年であったに違いない。また以下の2点の反省点が明らかになった。

- ・学校教育としての英語活動の基本である全人教育につながる英語活動に十分になっていなかった。
- ・外大の連携による独自の実践を深く考えていなかった。

これらの反省点をもとに、2005年度は英語活動を通して「人に関わり」「人を育てる」ということに着目した英語活動を計画した。

4.3 2005年度

2004年度の実績から2005年度では3年生以上のすべての学年で外大との連携の英語活動を行いたいとの東町小学校の意向を受けた。前年度に中心になっていた大学院生だけでは複数クラスある3年生以上の学年全部の授業を支援するのは困難なので全面的に筆者も参加することになった。各学年5回で1セットの計画を年間2セット実施し、合計で年間10回の英語活動を行うことを計画した。計画にあたり以下の3点を盛り込むよう注意した。

- ・中学校の先取り授業ではなく、子どもたちの心に残る英語活動を創る。
- ・人に関わることができる内容で、たとえ「練習」としてのコミュニケーションであっても「本当のこと」を話す内容にする。
- ・外大を校区に持つことによる独自の活動を取り上げる。

4.3.1 3年生の英語活動

この学年では「色・形の発見、フリスビーで遊ぼう」と「ギリシャの小学校にポスターレターを送ろう」の2つの実践を行った。

4.3.1.1 色・形の発見、フリスビーで遊ぼう

	トピック	表現の例	目的
1	自分のこと 数	Hello, my name is ~. 8 plus 2 equals 10. Pick out one card, and turn it over. Good bye. See you.	挨拶をする。 数字を英語で言う。 指示を理解する。

2	色, 形	Red, blue, yellow, orange, green, black, white, circle, triangle, square, rectangle	○、△、□に切った色画用紙を集めてオリジナルな旗を作る。
3	アルファベット	This is my name. This is my flag.	旗に自分の名前を書く。出来上がった旗を自分の名前と一緒に発表する。
4	形をさがして学校探検	This is a circle/triangle/square/rectangle.	グループで学校内にある形を探しに探検に行く。(Only English activity)
5	フリスビー	Here we go. Here we are. Thank you. You're welcome.	フリスビーを△や□の的に当てる。フリスビーを投げる時、またフリスビーの受け渡しの際の会話を英語で行う。

色や形の英語を学習した後にソフト・フリスビーを投げる活動である。実際には色・形の学習で自分の旗を作ること、また学校内を歩き回っている色々な形を見つける探検を英語だけで行う活動をした後、最後にフリスビーで遊ぶという計画になった。フリスビーは学校教育の体育の項目には入っていないので、異文化経験にもなると考えられ、筆者の小学校教諭の経験からも多く取り入れ実践してきたものだった。動作と言葉を合わせて学べる活動であり、また活動的な中学年に適していると思われた。

4回目の活動から「児童英語」を学部で履修している学生の中からボランティアを募り、活動に参加してもらった。児童4、5人のグループが学校内を探検に行く際に、学部生一人がリーダーとして一緒に行き、学部生は日本語を使わずにすべて英語で子供たちの相手をする事とした。学校の玄関のドアが rectangle であつたり、マンホールが circle であつたりするのを見つけながら、“This is a rectangle!”, “This is a circle!” という程度の英語表現ではあつたものの、学部生が “Oh, yeah! Look at that!” といった簡単な表現で会話をしながらの25分間の探検であつた。学部生が全く日本語を使わないので、子供たちも日本語で何かを示すのではなく “Rectangle!

Rectangle!” といってドアや下た箱を指さしたり, “Ok!” や “Yes!” と英語で返事をする場面が多くみられた。この活動はグループ活動の有効性が教員や我々にもよくわかり、これ以降のほかの学年の英語活動を計画するうえで大きな示唆となった。

4.3.1.2 「ギリシャの小学校にポスターレターを送ろう。」

	トピック	表現の例	目的
1	ギリシャはどこ? 自分の顔、名前	This is Greece. This is me. This is my name.	ギリシャについて知ってることを話す。場所を世界地図のなかで見つける。これからポスターレターを作ることを知らせ、自己紹介の方法として自分の顔の絵を描き名前を入れる。
2	学校生活を伝えよう	This is my ~.	自分の持ち物を英語で言う。
3	好きな教科	I like ~. Do you like ~? Oh, yes. Oh, no.	教科名の英語を知り、好きな教科を言ったり尋ねたりする。
4	好きな食べ物	I like ~. My favorite food is ~.	スーパーの広告を切り抜いて自分の好きな食べ物を紹介する。
5	住んでいるところ	This is my school/ hometown/homeland.	学校、神戸、日本の写真を見せながらそれを紹介する。

これはギリシャで在外研究中の外大の先生を通じてギリシャの小学校に自分たちの小学校や神戸市のことを伝えようという試みだった。長い英文の手紙を書くのではなく、自分のこと、持ち物、住んでいるところ、好きな食べ物を英語で言う学習をする中で、模造紙に絵を描いたり写真を貼り言葉を書きそえ、大きなポスターレターを作る活動であった。ギリシャは近年、オリンピックを開催していることもあり、思った以上に子供たちは「ギリシャ」という国名を知っていた。英語圏の子供たちではなく、自分たちと同じように英語を外国語として学習している相手であり、ギリシャ語の挨拶を含めて

遠い外国のことを具体的に考える機会にもなり、また英語を学習することによって世界が広がる一つの経験を提供できる教材だった。



これらの活動で使用した写真や切り抜きを順番に模造紙に貼って行き、5週間でポスターレターが

完成した。各時間の最初の15分程度で表現を指導し、次の20分程度でグループでその表現を練習するというのが英語活動の主な部分であり、それを形にして残していくプロセスでポスターレターを作った。どの回も英語で伝える内容が「英語の練習のため」の言葉ではなく「本当のこと」を練習に取り込んだ。グループ活動では学部生や、院生、筆者がリーダーとなって練習相手をすることによって、どの子供も必ず自分の好きな食べ物や教科を英語で言ってみる時間を確保した。各クラス1枚合計3枚のポスターレターが完成し、ギリシャのテサロニケに送られた。それが確かに届き、それを見ている先生たちの写真が送られてきた。本来ならこれから色々な文通が始まれば子供たちにとっても英語を使った活動を発展させられるところであったが、年度の終了時期を迎え、在外研究の先生も帰国したためこのプロジェクトは終了した。

4.3.2 4年生と5年生の英語活動

4年生と5年生の両学年で英語による学校案内を行った。教室で学んだ英語の表現を使って実の場に近い状況を経験することによって、「練習であっても本番」である活動を実施したかったからである。外国人のお客様（4年生）とクリケット（5年生）はともに筆者以外の外大の教員の支援を得ての活動で、「英語活動」をこえた「国際理解教育」「異文化経験」につながるプロジェクトを計画、実施した。

4.3.2.1 学校を案内しよう（４年生、５年生）

	トピック	表現の例	目的
1	あいさつ	Hello, my name is ~. Nice to meet you.	挨拶をする。 初対面の挨拶、日本語と英語の違いに着目し、比較して実践してみる。
2	学校にある部屋	What's this? This is our ~room.	学校内のいろいろな部屋の名称を英語で言えるようにする。
3	道案内に必要な表現	Where is the principal's office? This way, please. Let's go up/down. This is our principal's office.	場所の聞き方、答え方、簡単な案内の仕方を学ぶ。
4	お客様を案内する。	Turn right/left, please.	実際に学部生をいろいろな部屋に案内する。
5	お客様を案内して、人にも紹介しよう。	Who is he/she? He/She is Mr./Ms.~.	学部生を案内する途中で出会った人を紹介する。

学校にあるいろいろな部屋の写真を撮り、それを見ながら部屋の名称を英語で学び、英語で書いた部屋の名称のラベルをその部屋の入口に近いところに貼ってくるということで部屋の位置を確認した。この活動でユニークだった点は、案内する場面では子供たちに主導権があるということだった。相手をしてくれる学部生や院生から「この部屋は何?」「音楽室はどこにあるの?」尋ねられ、子供たちはグループで校内の様々なところを案内した。またその途中の廊下で会った先生を紹介したり、職員室に案内して職員室におられた先生を紹介したりもした。

4.3.2.2 外国人のお客様（４年生）

	トピック	表現の例	目的
1	お客様を迎える準備	Where is Spain/China/Russia? Which flag is Chinese? Hi, nice to meet you.	お客様の国の位置、国旗を知る。よい聞き手となるにはどうするかを考える。

2	どんなスポーツが人気があるのかを聞いてみよう	What sports are popular in your country?	聞いてみたいことは何かを出し合い、質問の練習をする。
3	スペインからのお客様		しっかりとお話を聞く。
4	中国からのお客様		同上
5	ロシアからのお客様		同上



最初の2回の授業で子供たちにスペイン人、中国人、ロシア人を教室へ迎える予定であることを説明するとともに、どんなことを聞きたいか、またお話を聞く時のよい態度はどのようなことかを学習した。スペイン人、中国人、

ロシア人の訪問者は皆日本語で4年生の子供たちにわかるようなことを話すよう依頼し、共通の質問事項として、人気があるスポーツと「こんにちは」と曜日の名称を各国語で紹介するよう事前に打ち合わせた。スペインからの留学生と学部のイスパニア学科の4年生がスペインのことを話し、フラメンコのビデオやドラえもののスペイン語版のDVDを見せていた。中国語学科のS先生は中国人の名前はどのようにしてつけられるかを日本語で説明し、子供たちの日本語の名前の漢字をひとりひとり中国語で読んだところ、子供たちは自分の名前の漢字が中国語になると全く違う音になって驚いていた。

ロシア人交換教員の中学生になる長男がロシアの絵本やおもちゃを持参し、ロシア語で、一人一人の子供たちにあいさつをしながら握手した。また子供たちの名前をロシア語で書いてきたので、自分の名前が中国語では全く違う音になるのを知った翌週には今度はローマ字ともちがう自分の



名前の書き方があることを知った。

どの国からの訪問者も本当に好意的に子供たちのために見せる物やできることを準備したので、子供たちは真剣に話を聞いていた。授業が終わるとあとからぞろぞろついてきて、まだ本当はいろいろ聞きたいことがあったのだろうと思えた。「外国人のお客様」はまさに外大を校区に持っていたからこそできる活動だった。

4.3.2.3 クリケットをしよう（5年生）

	トピック	表現の例	目的
1	クリケットで使うもの、基本のルール	Wicket, bowler, wicket keeper, batsman, run, out	用具の名称を知る。ビデオをみて基本的なルールを知る。
2	投げる、打つ、守る練習	Throw, hit, catch, touch	体育館で部分練習
3	ゲーム形式に挑戦	Run! Stop! Stay! Go!	体育館でゲーム形式を学ぶ
4	ゲーム	Go~ go!（英語で応援）	校庭でゲームをする
5	ゲーム		校庭でゲームをする



外大の教員と学部生の支援によってオーストラリアの子供たちに人気のあるカンガクリケットを行うことができた。活動の最後には道具一式が小学校に寄付され、小学校側は今後も続けて子供たちはゲームを楽しむことができると大喜びだった。単

に新しいスポーツをやってみるだけでなく、簡単な英語でゲームを進めることによって、将来オーストラリアやほかの国でクリケットをすることができることを目標に、外大から行った学部生の審判員、院生、筆者はみな英語で子供たちのゲームを指導した。ゲームを3回やることによって、英語の指示のなかでスムーズにゲームをすることができるようになり、さらに英語で

応援のしかたを学んで実際に英語で応援を行った。

4.3.3 6年生の英語活動

この学年では「外大訪問をしよう」と「外大の4年生からの送る言葉」を
実践した。

4.3.3.1 外大訪問をしよう

	トピック	学ぶ名称や表現	目的
1	インタビューの基本 の態度について		インタビューの時に気をつけること、好ましい態度とそうでない態度を学ぶ。外大はどういうところかを知る。
2	教科を聞こう	I like ~. What subject do you teach?	教科名の英語を知る。何を教えている先生なのかを尋ねる質問を練習する。
3	子供のころの夢を聞こう	I want to be ~. What did you want to be when you were a child?	いくつかの仕事の英語を知る。子供の時の夢を聞く質問を練習する。
4	宝物を聞こう インタビューの復習	What is your treasure? Hello, my name is ~. Nice to meet you.	宝物は何かを聞く質問の練習をする。インタビューの流れを復習する。
5	外大訪問		

前年度、英語で校内インタビューを経験した子供たちが6年生になり、担任の先生がたから今回の英語活動を昨年の学習の続きとして位置づけ、外大に行って英語でインタビューをすることはできないだろうか、という声があった。学校の外にでて子供たちが英語をしゃべるチャンスを作るには外大は子供たちの徒歩圏内にあり、日程を調整しながら実現させるべく当時の学生部長に相談しながら慎重に準備を重ね実現することになった。この項目に関しては稿をあらたにしてまとめたい。

4.3.3.2 外大の4年生からの送る言葉

卒業を前にした6年生の後半5回の英語活動は同じく卒業をまじかにしている外大の4年生からメッセージをもらうことになった。外国語を勉強して

よかったこと、大変だったこと、将来の夢などを語ってもらった。東町小学校の英語活動に多く参加している学生の中の3人が英語での一言メッセージと共に自分の経験を話してくれた。また、院生と筆者も1時間ずつ担当し、卒業前の彼らに英語活動のまとめとしての送る言葉を話した。



	トピック	学ぶ名称や表現	目的
1	Kさんからのメッセージ	Keep challenging yourself.	それぞれのメッセージを聞く。
2	A君からのメッセージ	Never give up. Dreams come true.	
3	Mさんからのメッセージ	Don't be afraid!	
4	れいこ先生からのメッセージ	Be responsible.	
5	I先生からのメッセージ	A meaningful life	

外大訪問を経験した子供たちにとって学部生の存在はより身近なものとなっており、どちらも同じように3月に卒業を迎えるという共通点もあって子供たちは学部生の話をとても真剣に聞いていた。この5回は具体的に英語の表現を何度も練習したりしたわけではなかったが、6年生の子供たちにとって2年間、外大と関わりつつ英語活動を行った最後のまとめとしてはふさわしい活動であったように思う。

4.3.4 2005年度の総括

各学年の英語活動は子供たちにとっては1年間でたった10回なので、1回も無駄にすることなく、彼らにとって外国語との出会いであったり本物のコミュニケーションの経験になるように計画を作り実施した。ゲームやごっこ遊びによる外国語教育ではなく、たとえ簡単な表現だけであっても真にコミュニケーションの道具となること、そして担任の教員たちも「教えなくてはいけない」という呪縛にとらわれることなく、児童と共に学んでいけるような計画を立てるように心掛けた。

10回とはいえ学年3クラスあると、毎回の事前打ち合わせの1時間を含め、院生と筆者は一学年合計40時間参加することになり、単純に計算しても3年生から6年生まで合計で160時間を小学校で過ごしたことになる。それほどまでに小学校に入ることがよいかどうかは別として、やはりある程度の時間をともに過ごすことによってお互いの信頼関係も生まれ、小学校の先生たちとより率直に、またより多くのことを話し合えたと思う。英語が入ってきて、自分から英語を使おうと思えば、さまざまなところに教材になるものがあること、またわからないことは話し合えば多くは解決することなど、共通理解できたことは数多い。このことは、この年の小学校の研修記録「研修のあゆみ」の以下の文章からも知ることができる。

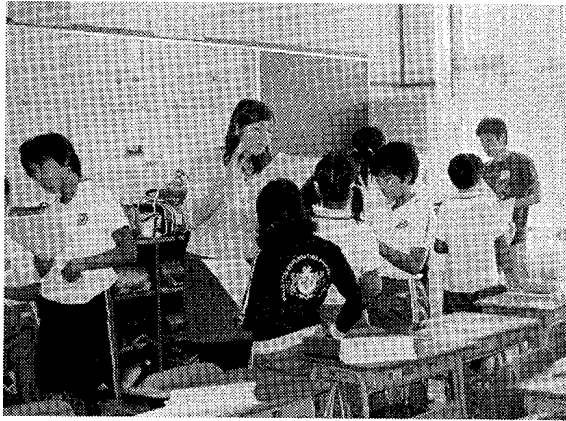
子供たちが学ぶ授業に（外大が）実質的に関わっていただくようになったのは昨年度からであるが、本校の英語活動は飛躍的に進歩した。英語が苦手な小学校教師が苦手意識を乗り越えて、英語コンプレックスを克服して、子どもたちの前で英語を発音することができるようになったのである。今後も当然、協力して神戸市における英語活動のありかたを提案していけるような実践研究を続けていきたい。

（平成17年度 研修のあゆみ）

当初の目標であった、「本当のこと」の会話となること、外大に関わる利点を生かすことなどは、各学年の授業のなかで様々に実践された。院生はこの年の記録をまとめて修士論文を仕上げ、学部生の何人かは小学校英語に関わったことにより、小学校教員になりたい、また小学校で英語を教える教員になりたいと小学校教諭の免許取得のため卒業と同時に通信教育を始めた。東町小学校の英語活動に参加したものは子供たちも大人も、それぞれに多くを経験した年であったと思う。

4.4 2006年度

2006年度は外大に関わったのは5、6年生の授業のみであった。5年生では6年生の外大訪問へ向け、小学校の校内の先生方への英語のインタビュー



とそのプレゼンテーション、6年生では外大訪問のためのインタビューの練習だった。教室でのインタビューの練習には写真が示すように、学部生の参加者が子供たちのグループに一人ずつ入り、きめ細かい指導を行った。

4.4.1 5年生 インタビューをしよう

	トピック	学ぶ名称や表現	目的
1	自己紹介	Nice to meet you. My name is ~. I live in ~.	自己紹介をする。
2	自分の誕生日	When is your birthday? My birthday is in ~.	12か月を練習し、自分の誕生日を言う。
3	好きな食べ物、スポーツ	What is your favorite ~? My favorite ~ is ~.	好きな食べ物やスポーツを英語で言う。
4	インタビューの練習		インタビューすることをまとめ、一連の流れとして練習する。
5	インタビューに行こう		グループに分かれ、校内インタビューに行く。
6	プレゼンテーション		わかったことをみんなの前でグループごとに発表する。

前年度、学校案内で学部生に接していた子供たちであるが、今回も毎回数名の学部生を迎えて、自己紹介にかかわるいくつかの表現を練習した。そして、5回目には学部生を連れてほかの先生方のところへインタビューに行き、わかったことをまとめて6回目の授業で発表した。

この実践で大きなことは学校全体が協力して授業中に5年生のグループが他の学年の授業中の先生のところへインタビューに行き、その学年の先生は自分のクラスの子供たちを前にして5年生のインタビューに英語で答えたことである。5年生にとっては他学年のクラスの子供たちが見ている前で堂々と英語でインタビューすること、また他学年の子供たちにとっては自分の先



生が英語でインタビューに答える姿、またインタビューする5年生の姿を見ることは大切なことであったと思う。子供たちはインタビューの時に一緒に撮った写真と共に、その先生は出身がどこで何が好きかなどを発表した。

この英語活動は「学校」という場がコミュニケーションを学ぶ場として機能することを証明する一つの大きな実践であったと思う。小学校の教員は大学卒業以来英語には遠ざかっている人がほとんどであり、たとえ相手が子供であっても、英語でのインタビューに答えるのは勇気のいることである。しかも自分が担任している子供の前で、である。2004年度からの英語活動の実践の積み重ねが、教員たちにも理解され、自分ができることを教員たちが実践する大きな場面であったと思う。

4.4.2 6年生 外大訪問

前年度の計画の改善点を盛り込んで授業を行い、外大訪問へとつなげた。詳しくは稿をあらためて述べる。

5. 地域の人的資源としての支援をふりかえる

筆者や院生が実際に小学校に行って教員たちとともに授業の計画を練り、共同で授業を実施することは確かに人的資源としての貢献であったと思われる。英語の表現を知ることや、教室の外でも英語活動が可能であること、また子供たちを楽しませるための英語活動を考えるのではなく、学びが楽しくなる英語活動を追求することなど、小学校側も多くを得たに違いない。

小学校の教師たちは1時間ごとの指導案を作成し、話し合いの場でそれを修正し実際に授業に臨んだ。すべての指導案は小学校の「研修の歩み」に収録され、今後も英語活動をどのように始め、どのような表現を使い、どんな

活動が可能であるかについての具体的な参考になるであろう。子供たちも担任教員だけではなく、外大から来た支援者を相手に英語を練習することができた。単に英語を学ぶというのではなく、英語を使って本当に挨拶をしたり、学校案内をしたりインタビューをしたり、言葉は人と関わるための道具であることを経験的に学習したと思う。

外大にとっても、院生や学生が地域にある小学校に授業に参加する形で実際に関かわることができたのは、大学での講義だけでは学べない多くのことを提供される結果となった。「教育」に関して学ぼうとするとき、本を読むだけでなく、実際に学校教育現場に入ることを許されるというのはとても貴重である。英語を知らない子供たちにとって、favorite というたった一つの単語がどれほど発音が難しいものか、また英語のスペリングを知らない子供たちにどのような掲示物が役に立つか、また小学校の先生がたはどのような掲示物を作っているかなど豊富なアイデアを見せていただける貴重な経験であった。このように東町小学校にとっての人的資源とはいえ、我々外大にとっても、生の子供たち、先生、学校教育現場に触れて学べることは数限りなかった。

地域の人的資源として考える外大の最もその貢献度が高かったと思われる6年生の外大訪問に関して、稿をあらためて詳しくまとめたい。

参考資料

文部科学省 小学校英語活動状況調査

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/03/07030811/001.htm

文部科学省 小学校学習指導要領

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/020501.htm

http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122601/001.htm

松川禮子(2006)津田塾会 小学校英語講師養成コース 3月18日の資料

神戸市立東町小学校(2005)研修のあゆみ「たくましく生きぬく子供の育成」神戸市立東町小学校研修委員会